

森を歩いていると、よく野鳥の羽が落ちています。普通は気にもとめませんが、時々とても美しいものにも出会います。先日も、黒っぽい羽に青い縁がついた、とてもきれいな羽を見つけて、思わず立ち止まりました。初めて見る野鳥の羽でしたが、すぐに「カケス」のものだとわかりました。あの「ギャーギャー」鳴く、やかましい野鳥です。

一般に鳥類の羽（翅）は、主に「風切羽（かざきりばね）」「雨覆羽（あまおおいばね）」「小翼羽（しょうよくう）」などに分かれます。風切羽は主に推力と揚力を生み出す、長く丈夫な翼の主要部位です。雨覆羽は風切羽の基部を覆う短い羽で、空気の流れを整える役割をしています。

風切羽は更に、翼の先端に近いほうから「初列風切」「次列風切」「三列風切」に分類されます。初列風切は主に「推進力」を、次列風切は主に「揚力」を、三列風切は主に「抗力を減らす」という役割があります。

カケスの場合、初列風切には青い模様はなく、次列風切と雨覆羽だけに青い模様があります。私が見つけたのは次列風切で、羽の縁（外側）だけに青い模様があります。全体が青くありませんが、翼をたたむと模様が重なって、広く青く見えるのです。自然は、実に美しく機能的な造形を創り出すものです。

（2024年7月下旬／北軽井沢）

